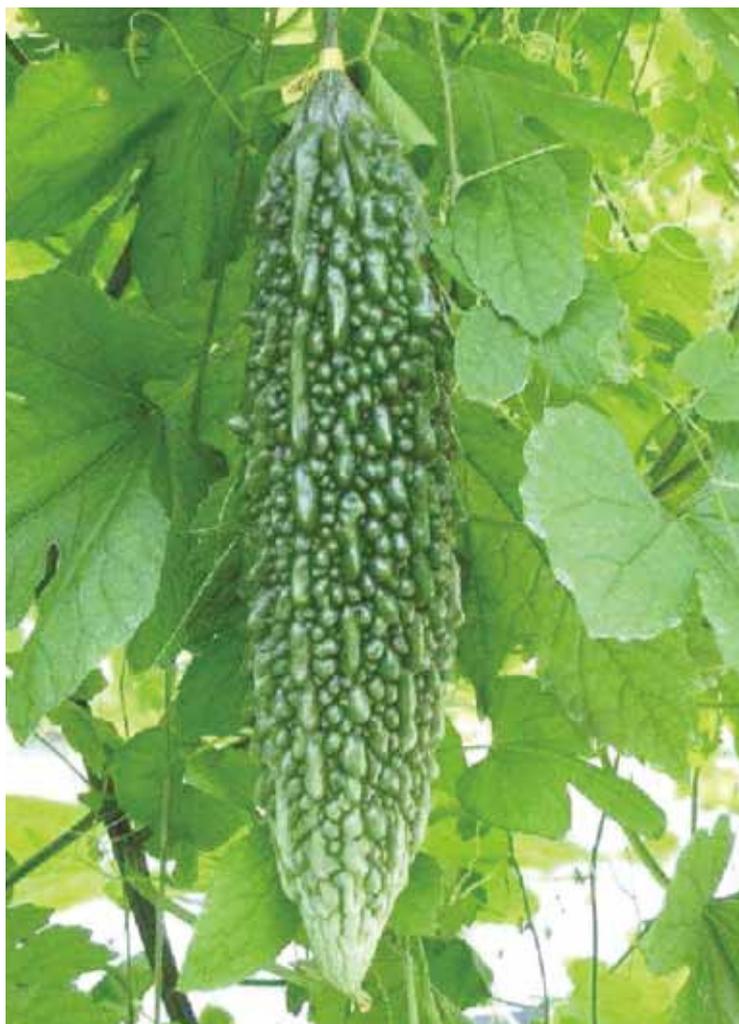


ふーぬ風

発行 〒901-1115
沖縄県南部農業改良普及センター
TEL: (098)889-3515
FAX: (098)835-6010

施設促成栽培用ゴーヤー新品種「研交6号」



ゴーヤー新品種「研交6号」

現在、沖縄県では、冬春期出荷用ゴーヤー品種として「汐風」(平成7年育成)が栽培されています。しかし、果皮色が薄く(白くなる)、低温期に果実の突起が鋭くなるという欠点がありました。そこで、「汐風」に比べ、果皮色も濃く、突起が丸いゴーヤー新品種「研交6号」を育成しました。

「研交6号」の特徴

- ① 果実の色が濃い
- ② 「汐風」に比べ イボが尖らず丸い
- ③ 果実にツヤ(光沢)がある
- ④ 収量は「汐風」と同等
- ⑤ C品が少ない(秀品率が高い)

※栽培上の留意点

他品種と比較して果皮色が濃いので、光が果皮に当たらない場合、果皮色の濃淡が目立ちます。定期的に果実の向きを変える等、色が均一になる対策を徹底して下さい。

「研交6号」の低温期におけるイボの突起について



汐風【イボ尖り】



研交6号【イボは丸】

「研交6号」のイボは丸いので
輸送時や小売り店頭陳列の際、

イボの折れ
イボの潰れ

が少ないです

来期に向けて樹づくりがスタート!!

～更なる品質向上を目指して～

マンゴー生産農家の皆様、今期の生産お疲れ様でした。

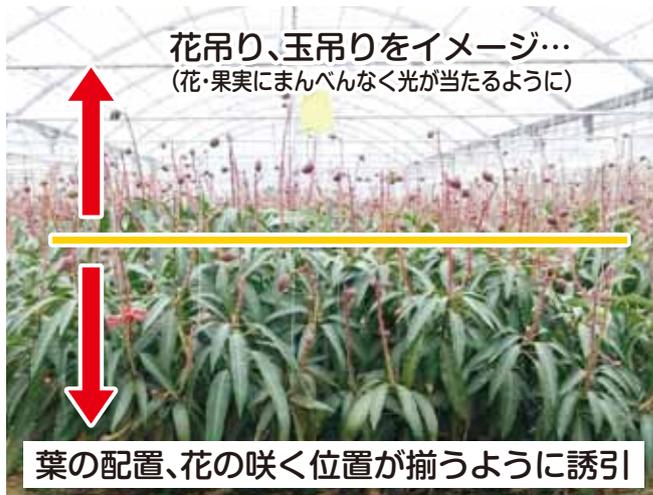
マンゴーの収穫が終わった8月から10月は、収穫後の樹勢回復を行い、来期の着果枝を育成する大事な時期です。マンゴーの収穫が終わって、ホッと一息ついたのもつかの間、生産現場では、収穫後の施肥、剪定、新梢の管理、病虫害対策等、来期に向けての管理作業に大忙しだったのでないでしょうか。新梢が伸び、結果母枝が充実してきたら、これから迎える花芽分化期・出蕾期に向けての準備を行いましょ。

(1) 枝の誘引「粗誘引→最終誘引へ」

花吊り・玉吊りなど、来年の作業効率を考慮しながら、ある程度高さが揃うように枝を誘引しましょう。誘引作業は、花芽の出る前(12月～1月頃)までには終わらせましょ。

- イメージはテーブル状の樹形。
- 誘引は一度に希望の位置まで引っ張らず、数回に分けて徐々に徐々に...
- 枝が下がって地面についているような枝は、枝の吊り上げを。

Point



(2) 吊り棚の設置・補強

～吊り棚をしっかりと準備しよう～

吊り棚がしっかり張られていないと、玉吊り後、果実の肥大とともに果実が垂れ下がり、葉の陰に隠れてしまう場合があります。エクセル線やワイヤーなど、たるみがないように吊り棚の設置・補強を行いましょ。

※吊り棚の設置や補強は、花吊り、玉吊りで、吊りひもが多くなる前に行いましょ。



油断大敵!!

～病虫害対策は忘れずに～

新芽の発生が落ち着いてくると、チャノキイロアザミウマの発生は比較的落ち着いてきます。しかし、ハダニ類やカイガラムシ類など、これからの時期でも発生がみられる害虫に十分気をつけ、これらの被害から結果母枝を守りましょ。また、炭疽病、軸腐病については、花芽分化期(12月頃)から予防散布を行うようにましょ。



ハダニとハダニ被害



新梢に発生したカイガラムシ

(園芸技術普及班：下地聡子)

カボチャのウイルス病防除対策

南部地区のカボチャ栽培において、ウイルス病は毎年発生が多く、重要な病害の1つとなっています。

カボチャのウイルス病は、すでにウイルスを持っているウリ科の植物(ヘチマ、トウガン、ゴーヤー等)から吸汁したアブラムシ類によって伝染することがわかっています。

以下のポイントに注意して、ウイルス病の予防に努めましょう。



ウイルス病にかかったカボチャの葉

アブラムシ類を入れない

- 育苗はネット(目合い0.8mm以下)が被覆された施設で行う。
- 定植後は、すみやかにビニールを被覆する。
- 防風垣を設置する。
畑の周囲にソルゴーや防風ネット等を設置することで、アブラムシが畑の中に入りづらくなります。



ソルゴーを利用した防風垣

防風垣のある畑とない畑のウイルス病発生率

(平成23年南部農業改良普及センター調査)

防風垣のある畑 1.3% 防風垣のない畑 23.9%

畑周辺のウリ科植物を片付ける

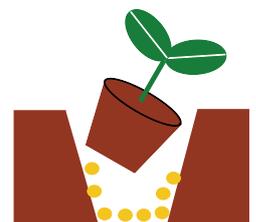
ウリ科植物がカボチャの近くにあると、ウイルス病にかかるリスクが高くなりますので、栽培終了後すみやかに片付けましょう。すぐに片付けができない場合は、株元を切って枯死させて下さい。



栽培終了後放置されたへちま

定植時、粒剤を植穴に入れる

粒剤を植え穴に入れることで、薬剤が植物へ吸収されやすくなり、定植初期のアブラムシ類の防除効果が期待できます。



粒剤を入れてから定植

定植時期を遅くする

近くにウリ科植物がある場合や毎年ウイルス病が多発する畑は、アブラムシの活動が衰える12月以降に定植しましょう。

ただし、12月定植の場合は低温時の開花となるため、2m間口トンネル、防風垣の設置、花粉交配用品種の植付けが必要となります。

(園芸技術普及班：野原正司)

牧草の刈遅れは「ふん」だり、蹴ったり！

牧草の刈取り適期は草種・品種によって異なり、それぞれ「栄養価」、「消化性」、「刈取り後の再生性」などをもとに、目安がつけられています(表1)。

表1. 牧草の草種・品種ごとの刈取り適期

草種	品種	刈取り適期
ローズグラス	カリーデ	草高1m
	カタンボラ	出穂始め～出穂期
ギニアグラス	ナツユタカ	草高1m
	ガットン、パイカジ	出穂始め
	うーまく	草高1.2～1.4m
ディジットグラス	トランスバーラ	草高40～60cm

出典：沖縄県 牧草・飼料作物奨励品種の特性及び栽培基準

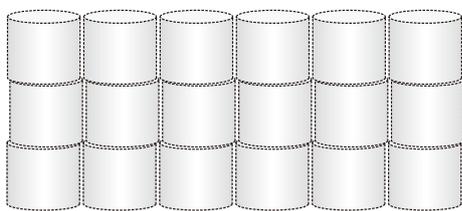


図1. 出穂期の穂の様子
(出穂期：出穂茎数が全体の30～40%に達した時期)

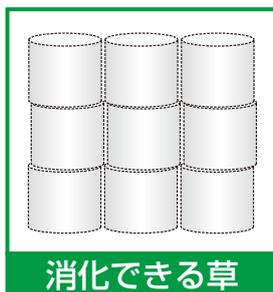
牧草は生育が進むにつれて、見かけの収量(乾物収量)は増加しますが、乾物消化率は低下します。ローズグラス「カタンボラ」を例に、刈遅れにより生じる「消化できない草」、つまり損失分を示します。(※前提条件：乾草乾物率：84%，ロール乾草重量：250kg/個，乾草回収率：80%)

(刈取り適期：出穂期)

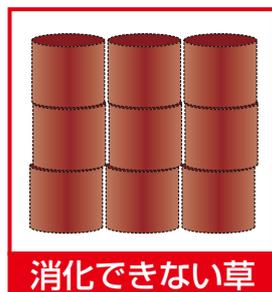
乾物消化率：47.3%，生草収量：2.32kg/m²



生産ロール個数：18個/ha



消化できる草

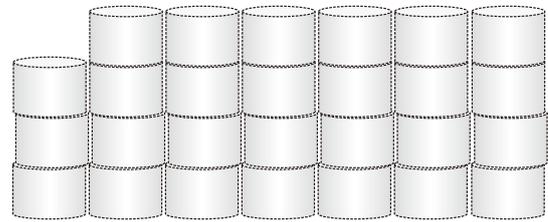


消化できない草

損失ロール個数：9個/ha

(刈遅れ：出穂期から9日後)

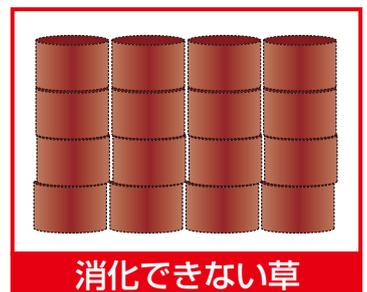
乾物消化率：41.8%，生草収量：2.71kg/m²



生産ロール個数：27個/ha



消化できる草



消化できない草

損失ロール個数：16個/ha

図2. 刈遅れによる損失(出典：知念雅昭, 普及指導員調査研究結果, 2014)

牧草の刈遅れにより収量は増加しますが、実は・・・

- ・消化できない草＝「ふん」が増える！
- ・消化できない＝栄養が不足
→濃厚飼料等で栄養を補う必要がある！
- ・牧草の生産コストも割高となる！

牧草の刈遅れは、
ウシが栄養不足になり、「ふん」が増えるばかり
まさに、ふん(踏ん)だり、蹴ったり

農作業安全 ～長く農業を続けるために～

農業をする上で最も気をつけなければい事の一つに農作業事故があります。たった一度の事故がきっかけで営農を断念することになり、最悪、命を落としてしまう場合もあります。農作業事故により毎年約400名の方が命を落としており、これは発生率(死亡事故件数/従事者数)で見ると、全産業平均の4倍にもものぼります。

下は、一般的な農業機械と、それにまつわる事故例と対策の一例です。農作業事故を無くし、安全に農業を続けられるよう、徹底した対策を心がけましょう。

機 械	事故事例	対 策
トラクター 	作業機の取替時に足に落下	●機械の構造、取替・修理手順について熟知する。
	走行時、片ブレーキにより転倒	●作業時以外はブレーキを連結ロック。 ●安全フレームの装着。
	乗り降り時に足下が滑り滑落	●手摺をしっかりと掴む。 ●降りる時は後ろ向きに。
耕耘機 	バック時にハウスとの間に挟まれる	●バック作業は避ける。 ●後方・足下の確認。
	機械を車から降ろす際に転倒	●周囲の環境(障害物や地形)に注意。 ●ギアがきちんと入っているか確認。
	硬い土壌を耕耘中に突然跳ね上がる	●土が硬い場合は力任せに一度で耕そうとせず、少しずつ数回かける。
刈払機 	斜面で作業中に滑って転落	●スパイク付安全靴の装着。 ●急斜面は小段を設置する。
	刃に弾かれた石が目当たる	●石やゴミ等を事前に除去する。 ●ゴーグル等の防護具を装着する。 ●周囲の人に注意する。(作業半径の確認)
	刃にからまった草を取ろうとして受傷	●ハンドルから手を離す時はエンジンを停止する。

平成27年度 沖縄県指導農業士・青年農業士

認定者紹介

平成27年9月10日に沖縄県庁にて沖縄県農業士等の認定式が行われ、南部地区から指導農業士5人、青年農業士2名が認定されました。

今後も地域農業のリーダー、農業青年や新規就農者の指導者としての活躍が期待されます。



青年農業士

富名腰 泰裕氏

(南風原町)認定(第173号)

【作目:野菜(インゲン等)】

青年クラブの組織活動も積極的に行い、沖縄県青年農業者会議・意見発表の部で優勝を治めました！今後の活躍が期待されます！



宮平 翼氏

(南城市)認定(第174号)

【作目:花卉(小ギク)】

主品目のキク栽培のみならず、その他の品目を視野に安定出荷、安定経営を目指します。



指導農業士

大田 洋氏

(八重瀬町)認定(第297号)

【作目:ピーマン】

就農して30年以上、具志頭ピーマンの先駆者です。第25回沖縄県花き・野菜・果樹品評会では農林水産大臣賞を受賞！



金城 正長氏

(八重瀬町)認定(第298号)

【作目:ピーマン、甘藷等】

ピーマン栽培はもちろん、保育園生～小学生の芋掘り体験受入等を通して、農業の魅力を伝えています。



東江 泰彦氏

(八重瀬町)認定(第299号)

【作目:ピーマン】

教職から就農し16年。部会を盛り上げ、今後は担い手育成にも取り組みたいと考えています。



伊森 正秀氏

(八重瀬町)認定(第300号)

【作目:ピーマン、サトウキビ】

JA部会での勉強会や視察受入を積極的に行い、栽培管理法のモデルとなっています。



上間 正巳氏

(北大東村)認定(第301号)

【作目:カボチャ、サトウキビ】

JA北大東村かぼちゃ部会の部会長として地域を引っ張る頼もしいリーダーです。H27年、拠点産地認定に尽力しました！



「農林水産部長と農業士会との意見交換会」

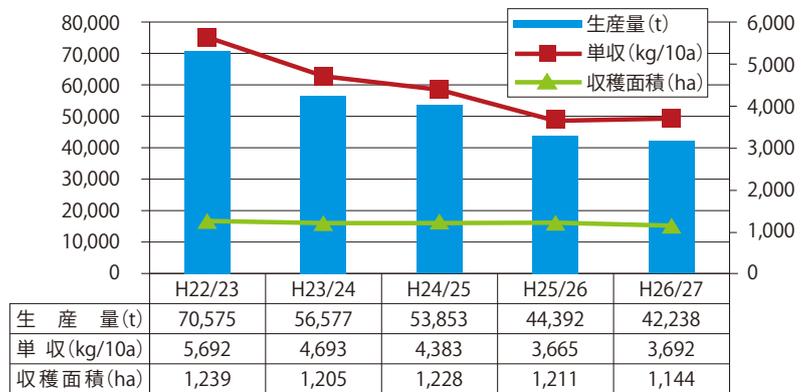
認定式の同日11:00～12:00に沖縄県農林水産部長との意見交換会が行われ、南部地区からは宮平聡会長が出席しました。

さとうきび増産へ向けた取組み (南大東村)

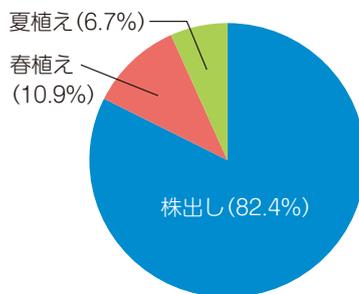
南大東村のさとうきび生産量は、近年、相次ぐ台風の襲来や干ばつ、病虫害発生、収穫面積の減少が原因で右肩下がり of 厳しい状況にあります。

「さとうきびの島」として、さとうきび増産&農家所得の向上を目標に関係機関(村役場、JA、製糖工場、県)が一体となって①株出し栽培の単収向上、②夏植えの推進、③収穫面積の確保と大きく3つの目標を掲げ、課題解決に取り組んでいます。

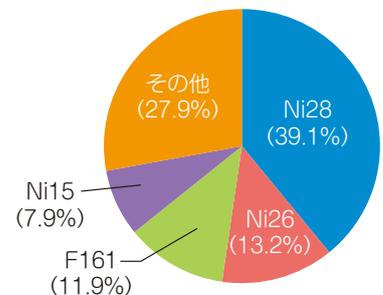
①に関しては株出管理作業の推進、かん水の励行、適期防除呼びかけ、②では緑肥等による土づくり推進、苗の助成、③では遊休地解消推進、かぼちゃとの輪作推進を実施しています。(右図は製糖工場データ参考)



●作型割合(H26/27)



●品種別植付面積比(H26/27)



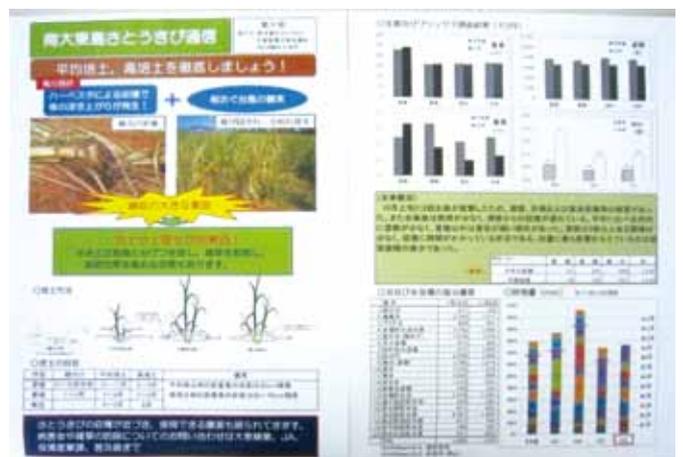
ハリガネムシ・イネヨトウ交信かく乱



圃場パトロール(管理状況等の確認)



農業研究センター赤地氏による講演会(農業機械関係)



技術情報誌(2ヶ月に1回発行)

(南大東駐在：亀山健太)

ヘチマ・カボチャ産地を支える神里実さん

～南風原町山川～



ビュウリーくん

南風原町山川の神里実さんは、父親の後を継いで農業に従事し25年になるベテラン農家です。就農当初はキャベツや冬瓜を作っていましたが、約20年前からヘチマ、カボチャを栽培し、現在の経営規模は露地800坪で夏場にヘチマ、冬場にカボチャを栽培しています。真夏は朝6時頃から畑に行き、8時頃には収穫を終えるそうです。収穫作業はバトミントトラケットを利用しており、山川地域でよく見かける光景です。腰を曲げないでいいし、葉に隠れている実が収穫適期かの判断に適しているなど、農家の工夫が活かされています。



バトミントトラケットを利用した収穫風景

ヘチマ栽培で苦勞することは、害虫対策や収穫の時期をコントロールするのが難しい

ことだと話されていました。一方、農業の良さは自分で働く時間を調整できることと語る実さん。今後は、条件の良い農地を借りることができれば規模を拡大したいと抱負を語っていました。

山川地域には地域農業振興総合指導事業が導入されており、実さんは推進委員として活躍中です。24年度には展示ほ場で防風ネットを利用した台風対策に取り組み、現在も継続して実践しています。今後も山川農業を支える担い手として活躍されることを期待しています。



(普及企画班：仲本優子)

マンゴーに続け! 熱帯果樹の産地づくり

～南風原町:宮城光雄さん～

南風原町神里で熱帯果実の生産を手がける宮城光雄さん(67歳)。約2500坪の畑に、マンゴー、スターフルーツ等を栽培し、熱帯果樹の苗木も生産しています。農業を始めて30年、最初は親のさとうきびや畜産経営を手伝いつつ、「温暖な気候を利用して生産できる熱帯果樹をつくりたい!」と夢を持ち、東南アジアの国々を何度も視察し、沖縄で有望と思われる果樹の導入・普及に取り組んできました。

現在、スターフルーツの産地化を町役場やJA等関係機関と連携し取り組んでおり、地域農家の中心的な存在として組織を牽引。2015年1月には南風原町が、スターフルーツで県内初の拠点産地の認定を受けました。

「今後ともスターフルーツ等熱帯果樹を増やし、南風原町をPRしたい!」と抱負を語っています。

最近ではマンゴー生産を後継者に任せ、自

身はスターフルーツを経営の柱に置いており、H26年度導入したパイプハウスで優良品種「美ら星」の生産を本格的に開始、将来は「スターフルーツとレンブとの複合経営を試したい」と新たな目標を掲げています。

「県産果実をもっと多くの消費者に食べてもらいたいから今日もがんばるよ!」と、熱帯果樹への思い入れは人一倍です。



【新たな施設でスターフルーツ「美ら星」を栽培する宮城氏】

(園芸技術普及班：大城和久)